

地域イノベーションシンポジウム ～「津軽海峡広域圏」の目指すべき姿は何か～

時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

平素より、当財団の事業推進にご支援、ご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

平成26年11月から独立行政法人 科学技術振興機構の「我が国の未来を拓く地域の実現に関する調査研究」が各地でスタートしました。函館では北海道大学大学院水産科学研究院による『津軽海峡広域圏』としての発展を視野に入れたブルーイノベーションによる国際産業創成拠点の実現というテーマで実施されている他、帯広、弘前と北海道、青森の3つの地域で調査研究が行われています。

本シンポジウムではこれら各地域の関係者を招聘し、調査研究結果を発表していただくとともに、我が国の未来を拓くために地域として「何を目指して何をすべきなのか」を討論し、今後の「目指すべき姿」を明らかにしたいと思っております。

年度末で御多用かとは存じますが、多数の皆様のご参加を賜りますよう、ご案内申し上げます。

記

日 時：平成27年3月23日（月）

＜シンポジウム＞13：30～17：30 ＜交流会＞17：45～19：00

会 場：ロワジールホテル函館 3階 彩光

函館市若松町14-10（TEL 0138-22-0111）

主 催：（公財）函館地域産業振興財団

申込方法：下記の参加申込書によりFAX 又は E-mail でお申込みください。

申込締切日：平成27年3月16日（月）

参加費：シンポジウム：無 料 交流会：3,000円（お気軽にご参加ください。）

定 員：100名（予定）

申 込 先：〒041-0801 函館市桔梗町379番地

北海道立工業技術センター内

（公財）函館地域産業振興財団 企画事業部起業化推進室 宮崎、申

TEL 0138-34-2600 FAX 0138-34-2601

E-mail : miyazaki@techakodate.or.jp

地域イノベーションシンポジウム～「津軽海峡広域圏」の目指すべき姿は何か～参加申込書

（公財）函館地域産業振興財団 企画事業部起業化推進室行き

FAX (0138) 34-2601

*○印を付けてください。

会社・機関名	役職	出席者氏名	電話番号	セミナー	懇親会

なお、この参加申込書にご記入いただいた事項は、参加者の取り纏めや連絡等にものみ使用し、それ以外の目的には使用いたしません。

※裏面もご覧ください。シンポジウムプログラムを記載しております

***** 地域イノベーションシンポジウムプログラム *****

テーマ～「津軽海峡広域圏」の目指すべき姿は何か～

- 13:30～13:40 開会挨拶
(公財) 函館地域産業振興財団 副理事長 三浦汀介
- 13:40～14:10 基調講演 地域科学技術施策の現状と今後の方向性について
文部科学省 科学技術・学術政策局 産業連携・地域支援課
地域支援企画官 神田 忠雄氏
- 14:10～14:40 JST産学連携事業について
(独) 科学技術振興機構 執行役(産学連携事業担当) 齊藤 仁志氏
- 14:40～15:05 函館地域「『津軽海峡広域圏』としての発展を視野に入れた
ブルー・イノベーションによる国際産業創成拠点の実現」
北海道大学大学院水産科学研究院 教授 木村 暢夫氏
- 15:05～15:20 “休憩”
- 15:20～15:45 弘前地域「青森県産農林水産物の高機能ブランド化
(高付加価値化)による所得向上と健康増進に関する調査研究」
弘前大学 食料科学研究所 准教授 福田 覚氏
- 15:45～16:10 帯広地域「資源循環型農業を核とした持続社会の創成
ー「フードバレーとかち」の実現に向けてー」
帯広畜産大学 地域連携推進センター
知的財産マネージャー 嘉屋 元博氏
- 16:10～17:30 「パネルディスカッション」
津軽海峡広域圏では何を指して何をなすべきか
コーディネータ (公財) 函館地域産業振興財団 副理事長 三浦汀介
コメンテータ 文部科学省 科学技術・学術政策局
産業連携・地域支援課 地域支援企画官 神田 忠雄氏
パネラー ・ (独) 科学技術振興機構 執行役(産学連携事業担当)
齊藤 仁志氏
・ 北海道大学大学院水産科学研究院 院長 安井 肇氏
・ 弘前大学 食料科学研究所 教授 嵯峨 直恆氏
・ (公財) とかち財団 事業部長 大庭 潔氏
- 17:30 終了
- 17:45～19:00 交流会 3階 翡翠